

国道・酷道？ くらがり峠

「暗峠」コース/「枚岡公園」コース 大阪府

大阪の中心地から1時間圏内で豊かな自然と景観にあえる暗峠コース。これからますますいいシーズンを迎えます。

「暗峠」コース 大阪府
JOA 公認 No.788 7km 13 ポスト
「枚岡公園」コース 大阪府
JOA 公認 No.788 3km 8 ポスト

大阪を再訪

2015年最初のパーマナントコースめぐり。高知への出張からの帰りを利用して、大阪に立ち寄りしました。

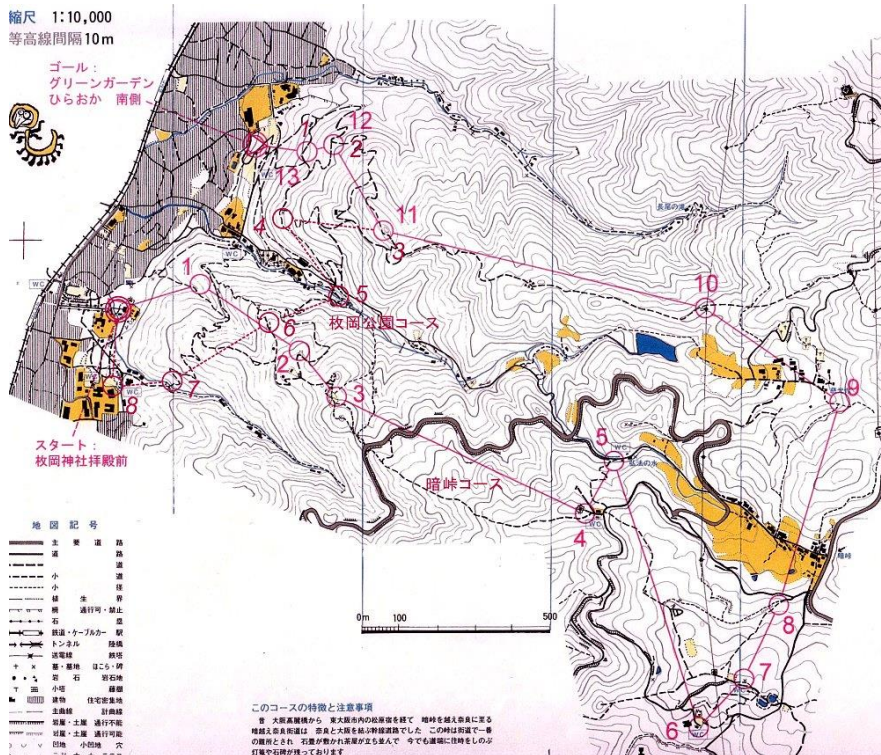
2012年3月に新規コースとしてJOAのホームページで紹介された暗峠コースと枚岡公園コース。実はこの2つのコース、1990年にNo.743としてすでに公認されており、今回なぜか再登録となりました。90年当時はロングの12ポストのコースとショート8ポストのコースという形で組まれていたものが、数年後にはロングコースは全20ポストを一筆書きにするコースに変更されました。私が1996年のゴールデンウィークに訪れた際は、この20ポストのコースを歩いています。

再登録にあたり変更された点は、ショートコースが「枚岡公園」コースと名称が設定されたこと、ロングコースは全13ポストになったこと、かつての20ポストのうち、2か所がカットされたことが挙げられます。

スタートまでのアクセス

現地へは、宿泊した新大阪から1駅の大阪駅で大阪環状線に乗り換え、さらに焼肉でお馴染みの鶴橋駅から近鉄奈良線を利用します。区間準急を利用すると20分もかからずに枚岡駅へ到着です。河内の国一の宮枚岡神社の参道に、駅の東側が直結していますので、改札を出たら地下通路を利用しましょう。奈良方面からの改札は、そのまま参道に向かえます。

以前は鳥居をくぐったらすぐに案内板があったのですが、現在は撤去されています。地図にもスタート地点が枚岡神社拝殿前と敢えて記していることから、案内板がないことが前提のよ



うです。ゴールには「グリーンガーデンひらおか南側 案内板」としっかり明記されています。

地図の取り扱いはネットプリントのほか、暗峠コースのB4判のものは枚岡神社社務所でも扱っています。この日は社務所で御朱印だけいただき、マップの取り扱いの確認をせずにスタートしましたが、帰宅してから電話で問い合わせたところ、扱っていると返答をいただきました。枚岡公園コースのA4判の地図はネットプリントのみの対応です。地図そのものは1988年調査のもので変更ありません。枚岡公園コースの地図は暗峠コースの地図の西側のみを利用して作られています。



枚岡神社拝殿

いきなりガッツな登り

参拝を済ませ、10時39分に暗峠コースをまずは歩き始めます。標高455mの暗峠までは、府民の森なるかわ園地を抜ける神津嶽ハイキングコースをのぼり、摂河泉展望ハイキングコースで額田駅近くのグリーンガーデンひらおかまで下る、平地区間が一切ない健脚向きの設定になっています。

第1ポストからさっそく山道に入ります。住宅地に沿った道から山に入ると、広々と拡幅された遊歩道が続いています。階段が整備され、これを使って地元の学生が大勢トレーニングに励んでいます。最初のポストからいきなり道の奥に隠れていて、うっかりしていると見過ごしそうになります。以前はすぐに見えたポストも時と共に草の繁茂が進み、結果として発見する楽しみは生まれています。

等高線沿いの道で一息入れたら、さらに上り坂へ気合の入れ直し。汗の出ていない序盤の苦しい坂道をグイグイ登っていきます。天気の良い土曜日とあって、多くのハイカーが山道を楽しんでいます。道の曲がり角で第2ポストを発見し、そのすぐ上にある枚岡

山展望台に立ち寄ります。山裾までびっしりと街が迫る展望は大阪ならではのもの。首都圏では出会えない光景です。ラグビーの聖地、近鉄花園ラグビー場も間近に見渡せます。

第3ポストも第1ポスト同様、道からやや入った地点にあるので要注意。枚岡神社創祀の地である神津嶽への小道との分岐手前で、左手後方にあるポスト確認します。ここも96年当時は草もなく楽に道から見えていましたが、今は早春のこの時期でも笹藪に覆われています。

第4ポストまでは登りの最長区間。勾配もさほどきつくない、遊歩道の整備も完璧で、快適そのものです。終盤には「胸突き八丁!! 休んでよ」といった登山者にやさしいメッセージが迎えてくれます。大阪府防災行政無線生駒中継所で第4ポストを確認し、出戻りになる弘法の水の手前で第5ポストも続けて発見します。

奈良時代に難波と平城京を最短で結ぶ道として設置された暗越奈良街道の難所にさしかかるこの地で、多くの通行者ののどを潤したというこの水。今は生水での飲用には不適とされています。

下ってきた道を第4ポストの近くまで引き返し、なるかわ園地をゆく、緩やかな歩道を進みます。かつてはこの途中にある万葉植物展示園にもポストが設置されていましたが、現在のコースではカットされています。森のレストハウスの先に第6ポストは設置されています。96年当時、最も錆の回ったポストでしたが、その頭は支柱の足元に逆様になって落ち、代わりに平板を貼り合せて応急措置がなされていました。ポストの前にあった大きな木の椅子はなくなっています。

ひっそりとした林を抜け、第7ポストは1979年に、けやきなど5,653本を寄贈したという財団法人によって設置された石碑の後ろにあり、山道を下る途中の右手で第8ポストを確認します。

酷道・暗峠(くらがりとうげ)

この先がいよいよ暗峠です。信貴生駒スカイラインに沿って歩いていくと、石畳の道に到達します。ここが正に暗峠。名前の由来は、樹木が生い茂り、昼間でも暗い道だったことからつけられているそうですが、あまりに陰しく馬の鞍がひっくり返ることから「鞍返り峠」と言われたという何ともおかしいエピソードも語り継がれています。

日本の道百選を示す石碑の横に、かつては丸太を鉛筆型に先端を尖らせた柱があり、「暗峠 生駒八景その三」と記されていました。今はこれに代わって日本の道百選の碑と同じ石碑が設置されています。ここから東側は奈良県生駒市です。

江戸時代に整備されたという石畳の道。これがれっきとした国道というから驚きです。道路では「国道」を文字で自動車では通行困難な道を「酷道」といい、鉄道の秘境駅と同じように一部のマニアで盛り上がりを見せています。この酷道の代表格としてここ国道308号線は有名な存在で、普通自動車での通行は極めて困難です。途中、斜度37%という自動車が通行できる国道の中では日本一の急坂が待ち構えていることでも名を馳せています。



暗峠の碑

慈光寺へ向かう小道を見出すと、その先にはオリエンテーリングらしいひっそりとした雰囲気と、小走りしたくなるようなルートが待っています。林を抜けると同時にポストが待ち構えています。

河内西国霊場二十四番慈光寺山門前を過ぎ、生駒縦走歩道を通ってほんの一瞬だけ、ぬかた園地をかすり、摂河泉展望ハイキングコースに入ります。鉄塔の横で記号の薄れた第10ポストを確認すると、長い長い下り区間に入ります。

このルートも多くのハイカーに利用されているようで、頻繁に挨拶を交わしながら下っていきます。軽快に下り、17分後にはピークにある第11ポストに到達していました。



第11ポスト

ここから西に下った地点に現在はカットされた2つめのポストがありました。96年当時もすでに欠損していて、そのまま再設置されることなく除外されたようです。

第12ポストは分岐脇にあり、第13ポストは道から見上げる位置に設置されています。いずれも以前ははっきりと姿が見えたポストも、共に草に埋もれ気味に潜んでいます。

ゴールと枚岡公園コースのスタートを示す案内板はこちらでは健在。3時間8分でのゴールです。

橋の上から番号チェック

すぐに枚岡公園コースを開始し、重複する3つのポストを引き返して第1～3ポストをチェックし、見上げる位置にある第4ポストまで遊歩道を下ってきます。見どころは第5ポストの真っ赤な豊浦橋と滝の景色。落石の恐れがあるとのことで、ポストのある地点は進入禁止になっています。橋の上からポスト記号は確認しましょう。

テラスで第6ポストを見つけたのち、以前は支柱しかなかった第7ポストは平板で補修されていました。そして最後の第8ポストは枚岡梅林内。まさに見ごろを迎えている園内には多くの来園者でにぎわっています。

枚岡神社に戻り、枚岡公園コースは1時間余りで終了です。



枚岡梅林

(2015年2月28日 踏破)